

短歌の部

身寄りなく 母娘二人で 生きてきて  
百寿の母に 百本のバラ  
坂本 榮

菖蒲園 今年も家族 連れ立って  
菖蒲の蔭の メダカに逢う  
中川 巖

引き潮に あさり赤貝 はまぐりを  
水満つまでとりぬ 東京湾  
倉持 靖

花石路の 幸せ色の 一群の  
日暮に凜と 黄色を灯す  
若松 甫枝

新川沿い 歩くゼッケン 黄と緑  
三キロ五キロの 老若男女  
保坂 房子

日がのぼり 冷たい光を とき放つ  
白銀の雪が 目を覚ます  
齋藤 紬  
(中小岩小学校)

短歌の部 審査員総評

短歌は自分の心の内を述べる歌です。  
日常生活の中で嬉しかったこと、悲しかったことを自分の言葉で、誰にでも解るように描写することです。美しい言葉やむずかしい熟語はなるべく使わないことです。

江戸川区短歌連盟 委員長 中島 央子

俳句の部

大人の部

干し柿に くせ字の祖母の 鑑定書 池田 哲雄  
ついと来て ふいと飛び去る 寒雀 石川 哲郎  
悟りとは 諦めること 紫蘇の花 石川 壽子  
バリトンの 声冴えわたる 猫の恋 伊東 道行  
見え隠る 鯉の背中や 花筏 梅沢 恵子  
竹林の 洩れ日の中に 石路の花 大塚 キミ子  
水郷の あやめ祭りや 嫁御寮 大日方 玉枝  
菖蒲園 心のつぼみ 咲きにけり 鎌田 キノ  
子の髪を 拭いてまたのせ 夏帽子 木村 以久  
空梅雨や 華厳の滝に 気を送る 熊谷 良子

庭の菊 主は在らねど 今盛り 栗山 富士子  
帰り花 孫の不思議の 戸が開く 毛塚 香恵子  
誤字もよし 無人の店の 春野菜 小島 ふさ  
何度目の 閉店セール 桜咲く 小瀬 美代子  
千本桜 トンネル抜けて 昼の宴 坂本 榮  
潮騒の 瀬戸の菜の花 明かりかな 加藤 嘉子  
梅檀の 花や話題の 若き棋士 高橋 亘  
花合歓の 晴れがましさを 子の寝息 樽 久美子  
転ぶなど 夫の声あり 石路の花 栃本 貞子  
密やかに ひねもす絶えぬ 鉦叩 中上 美代子